



思い出深いレースの一つ、ツール・ド・ランカウイ。狙っていた山頂ゴールのステージにてトラブルがあり失速。順位を落とし悔しさを味わったが、即座にイタリア人チームメイトが献身的なサポートに徹してくれたことは嬉しかった

## 中根英登 2017出場レース

- 2月22日～3月1日 ツール・ド・ランカウイ (2.HC)
- 3月8日～14日 ティレーノ～アドリアティコ (2.WT)
- 3月18日 ミラノ～サンレモ (1.WT)
- 3月26日～30日 ツール・ド・台湾 (2.1)
- 4月1日～6日 ツアー・オブ・タイランド (2.1)
- 5月3日～7日 ツアー・オブ・アゼルバイジャン (2.1)
- 5月21日～28日 ツアー・オブ・ジャパン (2.1)
- 6月25日 全日本選手権ロードレース
- 7月16日～29日 ツアー・オブ・チンハイレイ (2.HC)
- 9月8日～10日 ツール・ド・北海道 (2.2)

## トップレースで奮闘 中根英登の世界への挑戦

中根英登は大学生時代に現チームの前身となるチームNIPPOに所属し、大学卒業後はアジアを拠点に活動する愛三工業レーシングで活躍。そして今季、プロコンチネンタルチームへと昇格したNIPPOヴィーニファンティーニに3年ぶりに再加入。今シーズンは世界各国のトップレースを走り、27歳の中根にとって挑戦に満ちたシーズンを送っている。

「今まで経験したことのないレース数と移動距離。そして出場するレースはワールドツアーレースを含めて全てのレベルが高い。今シーズンが濃過ぎて、このチームにもう2、3年いたんじゃないか？ っていう感じもしている」と、春からの怒涛のシーズンを振り返る。

そこで感じることは、「この場所で当たり前のように仕事をこなし、結果を出せるようになりたいし、ならなければいけない。1kmでも長く逃げられるように、1回でも多くアタックできるように、さらにトレーニングを積んで力を付けなければいけない」。

世界との厳しい戦いに日々挑んでいるが、そのなかで、開幕戦となったツール・ド・ランカウイではアジア人最高位を獲得。チームの日本人選手としては唯一、UCIポイントも獲得した。

「昨年末にチームに合流してから、監督・コーチ陣の指導によってトレーニングメニューから自転車以外のトレーニングまで大きく変化し

た。おかげで、より強くより耐えられる身体に変わってきている。1つステップアップしたチームで自分自身の結果を残すことは今まで以上に難しくなると考えていたが、今までで今年が1番良い成績が出ている。ハイレベルなチームメイトたちに1歩でも近づき、越えたいという気持ちも、このプラスな変化に大きく影響している」。

登坂を得意とする中根はエースを担う機会も多く、東京五輪に向けて注目の存在だ。強さだけでなく、社交的な性格からチームメイトからの信頼も厚い。来季の目標は「今年以上の結果とイタリア語のレベルアップ」。歯を食いしばって走る中根の背中を押してほしい。



今季、もっとも嬉しかったことはツアー・オブ・ジャパンでのチームの連帯感とカノラの区間3勝。一方で悔しかったことはミラノ～サンレモでのリタイア

## ハングリーさが武器の 国内屈指のクライマー

個人総合9位の結果を残したアゼルバイジャンでのレース。トラブルや勝負所でチームメイトに助けられた

